

現場独特の雰囲気、感動!



山口県建設業協会では、土木・建築分野を学ぶ高校生に建設業の魅力や役割を実際に感じてもらうため、平成2年から建設現場見学会を実施しています。夏休みも終わりに近づいた8月28日(金)、山口農業高等学校環境科学科の1年生40名が参加した現場見学会取材しました。

小雨が降りしきる中、まず訪れたのは県道山口宇部線朝田IC建設現場。山口市朝田を起点に宇部市西岐波に至る県道山口宇部線は、地域の交流の活発化や、高速道路や空港、新幹線へのスムーズな連絡、渋滞の解消などを目的にした

主要県道で、現在(平成21年8月時点)嘉川インター(山口市江崎)〜宇部南インター(宇部市西岐波)までが利用でき、朝田〜江崎間が建設中。山口国体が開催される平成22年度までに開通する予定で、工事が進められています。

ここでは、巨大な掘削機を使った土留杭打設の作業や、高架橋下

部工の工事を見学しました。下部工の工事では、土を押さえるためにたくさんの大きな土嚢が積み上げられており、同年の7月に山口を襲った中国・九州北部豪雨の際や、8月に静岡で起こった地震を



テレビで見えていたであろう生徒の皆さんは、「土嚢に書いてある番号はどんな意味があるのか」「土嚢は1ついくらくらいするのか」など質問をしていました。

次に、同じく山口宇部線の小郡JCTボックススカルバートの工事現場へ。本線からきた車が、箱形のボックスの中を通って、小郡ICの方へ向かうルートになります。実際に現場の足場に入らせてもらい、側壁のコンクリート養生の様子を見せてもらいましたが、高い足場に驚いて足が進まなくなる生徒もあり、現場の空気を肌で感じ取っていました。

午後からは、小郡萩道路の概要説明を受けたあと、美東町の長登トンネル工事現場へ向かいました。工事中のトンネルの中を通れるのはめったにないということで、生徒の皆さんもその神秘的な光景に興奮気味。

「発破をかけて土や岩を運び出し、コンクリートを吹き付け、トンネルを強くする梓や地山の強度

をあげるロックボルトを打ち付けるまでが1mのワンサイクルで、これを1日に4回から5回、交代で24時間作業を続けて掘り進む」との話しに、何度もうなずき、目の前にある巨大な機械や無骨な岩壁を見上げて、スケールの大きさを実感していました。



河村功先生

引率された同校環境科学科・河村功先生は、「昔は工事現場などがあれば、そこに足をとめる子どももよくいたが、最近では工事自体が少なくなっていることもあり、そういったものに興味をもつて眺める生徒が少ないように思う。今回の体験はもちろんそうだが、これをきっかけにもっと興味を広げてもらえれば」と生徒達の意欲向上に期待をしておられました。また生徒達からは「実際の現場の雰囲気伝わってきた」「これからの進路選択にも参考になる」との感想が聞かれ、未来への新たな一歩に繋がる体験となりました。



2009年度 高校生現場見学 参加校 (延べ10校 351名)

■土木系学科

工事名(施工地)	実施日	対象生徒	学校名・学年
小郡萩道路【国道490号】(美祿市美東町)	5月27日	40名	田布施農業高等学校・1年生
	6月9日	31名	徳山商工高等学校・2,3年生
山口宇部線道路改築事業(山口市朝田)	6月22日	32名	萩商工高等学校・2,3年生
	8月28日	42名	山口農業高等学校・1年生
宇部湾岸線橋梁工事(宇部市小串)	5月29日	34名	下関中央工業高等学校・2年生
沢波川周防高潮事業(宇部市床波)	6月23日	40名	岩国工業高等学校・1年生
宇部環境整備事業(宇部市東見初)			
合計	6校	219名	

■建築系学科

工事名(施工地)	実施日	対象生徒	学校名・学年
下関市立川中学校 校舎棟・体育館棟新築工事 (下関市)	6月3日	35名	下関中央工業高等学校・2年生
	6月9日	23名	柳井商工高等学校・3年生
秋穂地域生涯学習施設新築工事 (山口市)	6月22日	34名	萩商工高等学校・2,3年生
	6月23日	40名	岩国工業高等学校・2年生
合計	4校	132名	